

JT-P863

P O L Q A ,
受聴品質の知覚的な
客観評価法

Perceptual objective listening
quality assessment

第 3.0 版

2020 年 8 月 27 日制定

一般社団法人
情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

目 次

<参考>	3
1. 標準の概要	4
2. 本標準で規定する内容	4

<参考>

1. 国際勧告等との関係

本標準は、2018年3月に国際電気通信連合電気通信標準化部門（ITU-T）SG12会合において勧告化されたITU-T勧告P.863に準拠している。

2. 上記国際勧告等に対する追加項目等

2.1 オプション選択項目

特になし

2.2 ナショナルマター項目

特になし

2.3 原標準に対する変更項目

特になし

3. 改版の履歴

版数	制定日	改版内容
第1版	—	欠番
第1.1版	—	欠番
第2版	2016年8月30日	制定
第3版	2020年8月27日	制定

4. 工業所有権

本標準に関わる「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTCホームページで御覧になれます。

5. その他

(1) 参照する主な勧告、標準

TTC標準 : JT-P800

ITU-T勧告 : G.191, P.10, P.56, P.340, P.501, P.581, P.800.1, P.810, P.830,
Pシリーズ勧告 Supplement 23

(2) 本出版は、具体的な規定内容を含んでいない。規定はすべて準拠元であるITU-T勧告によっている。

具体的な規定内容はITU-T勧告を参照する必要がある。

6. 標準作成部門

網管理専門委員会

1. 標準の概要

本標準は、300-3400Hz 帯域（狭帯域）から 20-20000Hz 帯域（フルバンド帯域）での音声通話における受聴品質の主観評価値を推定する客観評価法を規定する。

本標準で規定される客観評価法である POLQA は、原音となる参照信号と評価系からの出力である被試験信号との比較によって評価を行い、評価の適用対象は、音声符号化歪、伝送遅延の変動、パケットまたはセルの損失、時間／振幅クリッピング、伝送チャンネルのエラー等である。POLQA は狭帯域音声进行评估するモードとフルバンド帯域音声进行评估する二つのモードを有する。POLQA による評価結果は、絶対範疇尺度法による受聴品質を推定するスコアである。

POLQA のアルゴリズムは、本標準に添付されているレファレンスソフトウェア（C++プログラム）で規定されている。また、同添付のテストベクトルによってソフトウェア実装の妥当性を検証することができる。

2. 本標準で規定する内容

本標準で規定する内容は下記の ITU-T 勧告による。ITU-T 勧告中で参照している標準は表 1-1 に示す標準に置き換えるものとする。

ITU-T 勧告 P.863 : 「Perceptual objective listening quality assessment」 (03/2018)

表 1-1 本標準で置き換えて参照する標準

ITU-T 勧告中の参照先標準	本標準で置き換える標準
ITU-T 勧告 P.800(1996)	TTC 標準 JT-P800